

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ヒシ除去による環境整備とヒシの実を活用した地元特産品開発
事業主体 (連絡先)	NPO 法人諏訪市セーリング協会 諏訪市沖田町二丁目43番地2
事業区分	産業振興・雇用拡大 (その他)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	736,000 円 (うち支援金: 588,000 円)

事業内容

諏訪湖のヒシの繁茂は年々増加しており、特に本年度はコロナ禍の影響によりヒシ刈り作業ができない状況にあった。そこで船舶航行や漁への影響もあり船舶を扱う専門的なスポーツ団体としてヒシ除去作業を実施した。また、ヒシは現在焼却処分もしくは堆肥化しているがヒシの実の中身を剥きだし活用することで新たな資源として試験的醸造(焼酎・リキュール)に取り組み地元の特産品となる可能性を模索した。

- ・船舶を使用したヒシ刈り作業
- ・ヒシの実を活用した地元特産品開発



【目標・ねらい】

- ① 参加予定数100名に対し200名
- ② 刈取目標1tに対し3t以上
- ③ 焼酎・リキュールが完成した
- ④ 酒の味について高評価を得た

事業効果

- ① 諏訪湖の日制定により住民意識の向上が図られてきたこともあり、諏訪湖への愛着が芽生えてきている。今回予定していた参加人数も大幅に増員され、作業効率が高まった。また、これらの取組が報道等を通じて評価され、諏訪湖創生ビジョン構成メンバー以外のご支援もあり年度末となってしまったが事業報告会並びに試飲会までこぎ着けることができた。
- ② 作業への参加者が多かったことからヒシの刈取数量も増し、ヨットハーバー沖合もきれいになった。
- ③ 地元特産品開発として行ったヒシの実(中身)を活用した試験的醸造では、味わい深いお酒の仕上がりとなった。
- ④ 試飲会では諏訪を元気にする飲食店の会長などから講評をいただき、今後の取り組みに期待された。

※自己評価【 A 】

【理由】

・諏訪湖の負となるイメージだったヒシが、新たな活用につながる取組ができたことにより、地元の特産品となり得るものとなった。

今後の取り組み

今回の事業を通じて、ヒシの実を活用した地元特産品ができることを確認した。しかしながらヒシの実(中身)を剥きとるまでの作業工程に課題も多く、今後は特殊な機械開発ができないか工業関係者と協議を重ねたいと考えます。お酒を販売するまでには時間を要すると思いますがヒシ刈りに合わせて実を剥きとることをイベント化することにより一定数の醸造は可能となるため計画的なヒシ刈りについては今後も実施したいと思っております。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある